



揖斐川→

建設現場で橋の構造や施工順序の説明に耳を傾ける生徒たち 二大垣市大村地先

『将来は建設業界で働きたい！』 地元中学生が職場体験学習

- 揖斐川新橋（名称：大安大橋）の建設現場で11月11日（火）・12日（水）、大垣市立江並中学校（大垣市外濶）の2年生3人が職場体験学習を行った。生徒たちは、目を輝かせながら、橋が造られる一連の施工順序や工法など建設業の仕事について学んだ。

同中学校では、勤労の尊さや豊かな職業観を育てようと、2年生を対象に36事業所で職場体験を企画し、同中の安藤諒君、小林竜之介君、山下晟矢君の3名が、今回、橋梁工事の建設現場を訪れた。

冒頭、工事を請け負う岐建（株）の社本高司部長は「土木はとても魅力ある仕事。今回の体験学習を通じて、市民の生活を支える道路や橋がどのように造られるのか、実際の現場を見て、ものづくりの醍醐味を味わって貰いたい」と挨拶。

ヘルメット、長靴に着替えた生徒たちは、職員らの説明を受けながら、朝の朝礼・ラジオ体操から1日が始まり、職長らによる安全指導打合せに立ち合い、現場監督の気分を味わった。また、橋の工事の流れを教材で学び、実際の工事現場でその施工状況を確認しながら、パソコンを使い、成果をレポートとして纏め上げた。



パソコンを使いレポートの作成作業（現場事務所内）



朝一番のラジオ体操で作業員らと一緒に体をほぐす



安全指導の打ち合わせに立ち会う

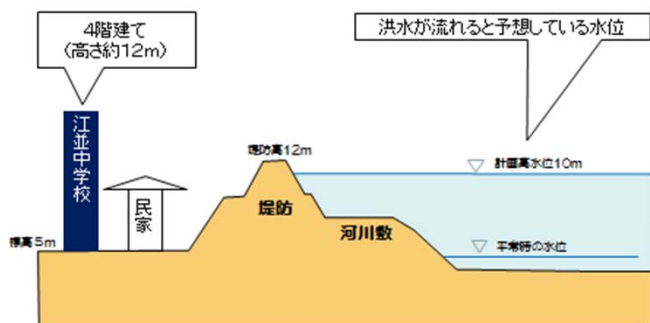
身近に流れる川のこと、防災工事の必要性学ば！

- ほその たかし
 続いて、国土交通省の細野貴司・揖斐川第二出張所長が加わり、公共事業の全体像を解説。身近に流れる揖斐川を例に、洪水時の河川水位と住宅地の土地の高さを図解で比較したほか、川の流れの特徴や生徒たちが住む地域の地名由来をクイズ形式で紹介し、河川など防災工事の必要性を唱えた。

この後、生徒たちは、河川工事の建設現場を大安大橋から見学し、穏やかに流れる揖斐川のリズムを感じて、広い川原や周囲の木々を眺めるなどその情景を楽しんだ。

■洪水から地域を守る堤防

国土交通省



建設重機が立ち並び、急ピッチで進められている河川の堤防工事を見学する生徒たち

職場体験学習を振り返り・・・

- ダムに興味があると話してくれた山下晟矢君は、細野出張所長から、横山ダムの「ダムカード」をプレゼントされ喜びを噛みしめた。今回の職場体験学習を振り返り、「橋が完成するまでの流れをパソコンを使って、プレゼン資料を纏めたが、最初は手間取り大変だった。建設会社に入り、どんな仕事を行うにもパソコン作業は必須だ、ということが分かり、とても勉強になった」と語った。

また、地図に残るような大きな構造物を造り、そこで電気関連の工事に携わりたいと話してくれた安藤諒君は「橋を作る部材1つ1つの形状に、その意味や役割があることを知った。また、トンネル工事を行う時も、X、Y座標を基に精度管理することを知り、建設業がそこまで細かく、シビアな仕事をするものだとは思ってこなかった」と語った。

最後に、建設用重機を運転（オペレーター）してみたいと話してくれた小林竜之介君は「昔、この地域は細かく枝分かれした川が幾つも流れ、洪水にとっても苦しんできたということが分かった。自分の住んでいる家が、洪水によって浸水することがないよう、丈夫な堤防を作って欲しい」と語り、「いつかは、その工事を自分の手でやってみたい」と胸を張った。



2日間の職場体験学習を終え記念撮影する岐建（株）の関係者と生徒たち = 大垣市大村地先（現場事務所前）